

1 人工股関節全置換術における課題

股関節は、関節に加わる力が下肢では最も大きい部分であり、股関節が変形すると、股関節に疼痛を生じ、また、歩行障害のために生活の質が損なわれます。人工股関節全置換術は、変形した股関節を人工のインプラントに置き換える手術です。日本では、人工股関節全置換術は、患者が側臥位（横向きに寝た状態）で行う後方法や側方法が主流ですが、仰臥位（仰向けに寝た状態）で行う前方法は、患者にとって身体の負担が少なく、術後の痛みも軽く、回復も早いと注目を浴びています。

2 産学共同研究によるモバイル下肢牽引手術台

千葉大学大学院医学研究院の中村順一助教は、2012年頃から下肢牽引手術台を用いた前方法による人工股関節全置換術のメリットに着目して、この術式に取り組み、2013年11月から、サージカルアライアンス株式会社と共同で、前方法による人工股関節全置換術に適したモバイル(携帯型)下肢牽引手術台「LECURE®」(ルキュア)の開発を行いました。

LECURE®を用いた前方法による人工股関節全置換術では、手術時間の短縮、出血量の減少が期待できます。LECURE®は、医療機器製造販売届も提出されており、今後数年で幅広い医療機関に普及させることを目指しています。



モバイル下肢牽引手術台「LECURE®」



LECURE®



Surgical Alliance inc.

<http://s-a.jp> 詳しくはHPをご覧ください